「京都詩情」写真家 甲斐扶佐義 初回顧展

“Living as a poet in Kyoto”
The first retrospective of Kai Fusayoshi’s Photography

「京都詩情」は、半世紀にわたって京都を捉え続けてきた写真家、甲斐扶佐義の初回顧展です。2019年9月21日から10月6日にかけて世界遺産、元離宮二条城にて開催された本展は、入場者数1万8千人を記録する盛況ぶりとなり、メディアでも多数取り上げられました。一昔前の京都を知る人々は、甲斐の写真に当時の思い出を馳せ、観光客・外国人は観光都市としての京都とは一味違った「素顔の京都」に感嘆しました。文化庁の移転を控え、名実ともに文化首都となる京都ですが、ガイドブックでは知ることのできない町の人々の息遣いを垣間見ることができます。また、甲斐扶佐義は京都の文化拠点として有名な喫茶店「ほんやら洞」と「Bar八文字屋」のオーナーとしても知られ、その作品は国内外で愛されています。本展キュレーターにはかねてから甲斐の感性が唯一無二のものであると見抜いていた、フランス国立造形芸術センターの写真部門責任者として活躍中のパスカル・ボースを迎え、「詩人としての写真家」という観点から甲斐作品を紹介します。本展は、写真史にその名を刻むであろう甲斐の作品群を網羅的に鑑賞できる、またとない機会となっています。

概要

展覧会タイトル：　「京都詩情」写真家 甲斐扶佐義 初回顧展

英文展覧会タイトル：”Living as a poet in Kyoto”
The first retrospective of Kai Fusayoshi’s Photography

仏文展覧会タイトル：”Vivre en poète à Kyōto”
Première retrospective de l’œuvre photographique de Kai Fusayoshi

キュレーター：パスカル・ボース Pascal Beausse（Centre national des arts plastiques 国立造形芸術センター／写真部門責任者）、企画：MUZ ART PRODUCE

Webサイト：https://muz-art.jp/kai-exhibition/
予告編：https://www.youtube.com/watch?v=gwNRvDxWuqM&t=2s

1.キュレーターステイトメント（パスカル・ボース）

芸術家の集う店、
美女とネコ 、
通りで遊ぶ子どもたち
夕立のなか、買い物へ出るお婆さん

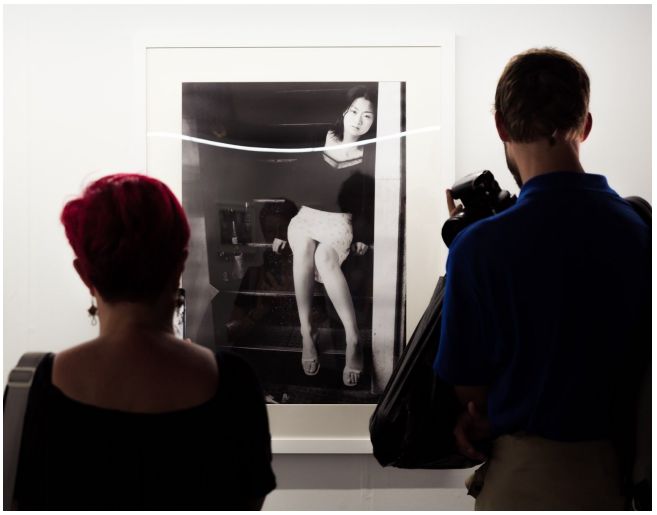
日々、京都を撮りながら時代を跨ぐ。自由と反発の時代から不安定な今日に至るまで...
甲斐扶佐義は独特のスタイルを確立した。それは時代を超えて流行とは無関係だが、彼の住む街の日常に寄り添う。
彼は京都の大小さまざまな出来事のヴィジュアルストーリーを描いた。
京都にこのような眼差しを向けるものは彼以外に誰もいない。
包み込むような優しさと感謝の気持ち、深い人情が込められた視点。あらゆる場所や時間に潜む美を見出すことができる視点。京都のそれぞれの場所、日本社会の昼と夜が切り替わる律動の各瞬間に存在する美。
甲斐扶佐義は呼吸をするかのように写真を撮る。実存主義的なやり方で、一瞬一瞬に彼の詩人の魂が目覚める。シャッターを切るきっかけは、暮らしの意外な場面に対する驚きと感嘆であり、それぞれの瞬間には美が宿る。それは模索する視点だ。彼が出会ったこと、生きた瞬間に対する、ひとりの詩人の視点である。

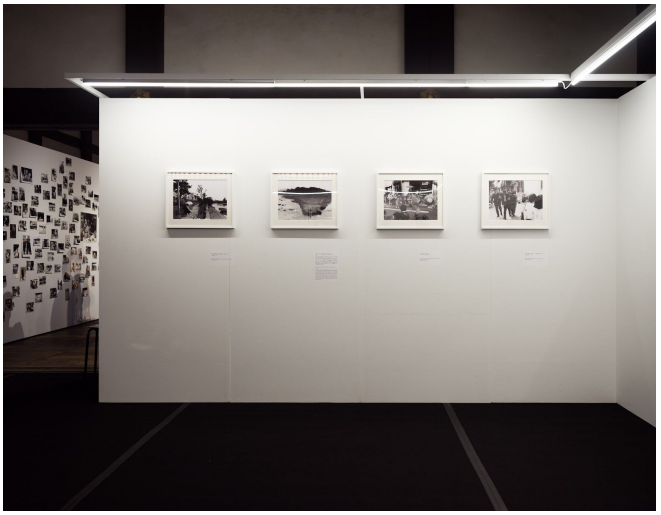
2.内容・展示構成

1970年から現在までの約50年間の甲斐扶佐義の軌跡をキュレーターパスカル・ボースがセレクト。
「京都詩情」「子どもの遊び」「猫の町」「女性の永遠の美」「芸術家が集う場所」の5つのテーマで選ばれた作品を額装で68点展示するとともに、甲斐が1978年から繰り返した写真展「出町界隈あなたも写ってませんか?/ 写ってる方には最終日にタダであげ⊠」を再現するインスタレーションを設置。板の間の広い空間で全長9メートル、高さ２.５メートルの壁をたて、オリジナルプリント約500点を展示した。
展示の最後には甲斐を尊敬するフランス人映像アーティスト、ホァン・エンギュエン・ルが来日した際に撮影した映像作品『Kyoto & Kai』（2011年制作）を展示した。

内覧会風景

展示風景写真





3.写真家：甲斐扶佐義について

甲斐扶佐義（かいふさよし）

1949年大分市生。11歳で写真開始。1968年同志社大学政治学科入学、即除籍。京都の伝説的喫茶店ほんやら洞（2015年焼失）やBAR八文字屋を経営していることで知られている。店の持つ「創造的無秩序」と呼ばれる雰囲気は多くのファンを持ち、店を訪れたお客が作品のモデルとなることもある。90年代には京都新聞紙上でフォト&エッセイを連載し、2001年より連続的に欧米各地で招待個展を開催。写真集は「路地裏の京都」「Beautiful Women in Kyoto」「京都の子どもたち」「京都猫町ブルース」等、40冊以上出版している。また、京都美術文化賞や、パリ・ボザール展ジャン・ラリヴィエール賞を受賞するなど、国内外で高く評価されている。2019年にはフランクフルトのGalerie Isolaで個展を開催するなど、近年もその創作意欲はとどまるところを知らない。 (HP: http://kaifusayoshi.website/より)→別紙、経歴詳細

●いずれにせよ、何十年もひとつの町に住みつづければ、人は何枚もの地図をもつことになる。
甲斐扶佐義『京都　猫ノ泉』1996、あとがきより）

●カメラを持って街中をほっつき歩く。それだけで幸せなのだ。
甲斐扶佐義（『地図のない京都』1992、まえがきより）

●甲斐扶佐義の写真集は、時代小説の世界を思わせる。それも武士の城づとめでの世界ではなくて、武士でも用心棒となって巷に住む市井物の世界である。
鶴見俊輔（哲学者）「甲斐扶佐義の写真集によせて」（『地図のない京都』1992）

●別に上手な写真というわけではない。でも、1枚1枚、1枚いち枚に「俺がこんなものを見たんだ」という歓びと感動がきちんと写りこんでいて、見る者の目を止める力がある。（中略）何より、写真を撮ることが彼自身の生のリズムとぴったり同調（シンクロ）しているのが、見ていて気持ちよかった。
飯沢耕太郎（写真評論家）「甲斐さんの写真」（『京都の子どもたち』2003）

4.キュレーターについて

パスカル・ボース　Pascal Beausse

美術評論家、キュレーター。現在、パリのフランス国立造形芸術センター(CNAP)の写真部門の責任者を務める。「Flash Art international」特派員を1998年から2013年まで務める。『Art Press』や『Blocnotes』、『Critique d'art』などにも寄稿。2007年にはヴィラ九条山　(京都)の招聘アーティストであった。京都をこよなく愛するボースは、かねてから甲斐の作品を本格的に紹介する展覧会のキュレーションを熱望しており、日仏交流アートイベント、「ニュイ・ブランシュKYOTO　2019」の機会に二条城二の丸御殿台所にてようやく実現に至る。ヨーロッパで甲斐がなぜこうも愛されるのか、彼のキュレーションを通してその理由を垣間見ることができる。

5. 会場について

二条城二の丸御殿台所開催時データ

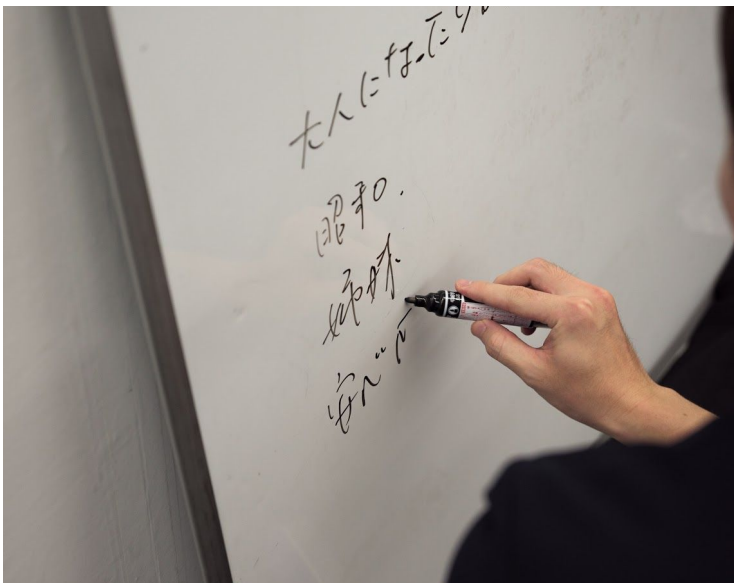
会期：2019年9月21日(土)〜10月6日(日)
　16日間　8:45-17:00
会場：元離宮二条城二の丸御殿台所
料金：無料　＊別途入城料が必要（入城料：〜9/30一般600円、10/1〜一般620円）

来場者数：17131人

主催：京都市、元離宮二条城 甲斐扶佐義写真展実行委員会
共催：京都市教育委員会、アンスティチュ・フランセ関西
協賛：株式会社グランマーブル、DMG森精機株式会社、アニエスベージャパン株式会社、ANAクラウンプラザホテル京都、株式会社七彩、株式会社フレームマン、ガクブチのヤマモト、walden woods kyoto、京都中央信用金庫、株式会社モトックス
協力：泉川真紀事務所、一級建築士事務所比叡工房、KYOTOGRAPHIE、KG＋、ギャラリーメイン、文化庁 地域文化創生本部
後援：京都新聞、読売新聞京都総局、京都府

6. 展覧会関連イベント

展覧会にあわせて、甲斐扶佐義のギャラリートーク、パスカル・ボースのキュレータートークなどを企画いたします。
二条城二の丸御殿台所での会期には、甲斐扶佐義ギャラリートークを全3回、キュレータートーク、ワークショップ「作品をじっくり観察しよう」、ワークショップ「いしいしんじ、甲斐扶佐義と写真を撮ろう」を開催。盛況の内に終了致しました。



7. 印刷物

チラシ５万枚、ポスター　A2　100枚　B2　200枚を京都をはじめ全国の関係機関に配布致しました。

チラシ

ポスター

8. 物販

二条城台所土間では展覧会関係グッズの販売を展開しました。

・甲斐扶佐義の書籍や往年のポスターやポストカードを扱うヴィンテージコーナー

・出展作品をモダンなテイストでプリントしたポストカードやサコッシュなど今回の展覧会の機会に制作したオリジナルグッズコーナー

・アニエスベー株式会社による書籍やアパレルを扱うポップアップショップ

9. 広報実績

Webメディアでは美術手帖Web版、朝日新聞Web版、京都新聞ことしるべ、京都観光Naviをはじめとする17媒体にご紹介いただきました。
紙媒体では、日本カメラ11月号、月刊京都10月号、京都新聞、朝日新聞、大分合同新聞紙、読売新聞、神戸新聞、毎日新聞、時事通信、KYOTOLIFE10月号にご紹介いただきました。さらに、甲斐氏のFM大阪「大人の文化村」、KBS京都「きらきん」出演に加え、KBS京都ニュースに取材いただくなど、幅広くご紹介いただけました。

事務局／問い合せ先

MUZ ART PRODUCE: 075-205-5396
カルドネル佐枝（MUZ ART PRODUCE代表） sae.cardonnel@muz-art.jp 080-6105-0401